

# 考察

## ① 治療の影響

肩甲舌骨筋上頸部郭清術と左側下顎区域切除術+チタンプレート再建  
オトガイ部は保存されており、舌骨上筋群、舌骨下筋群は可能な限り保存されていた。  
嚥下に関連する筋の運動神経も保存されていた。  
術前の放射線照射により、組織の瘢痕化が進み喉頭の挙上が不良となっていた  
可能性も考えられる。

## ② 嚥下訓練開始時期の遅れ

術後のSSIにより嚥下訓練の開始が遅れ、嚥下に関しての廃用萎縮が進行した可能性  
が考えられる。

## ③ 本人、家族のキャラクター

本人、家族のキャラクターが特殊であり、なかなか医療者側の意図が伝わらなかったり  
して後手後手に回ってしまった。